

氏名(本籍)	安 則 貴 香(神奈川県)
学位の種類	博士(体育科学)
学位記番号	乙第23号
学位授与年月日	平成29年3月15日
学位授与の要件	日本体育大学学位規程第5条第2項の学位は、大学院学則第35条第2項の規定により授与する。
学位論文題目	ドイツにおける新体操促進運動(Gymnastikbewegung)に関する史的 研究(1901年—1933年) —ドイツ体操連合(Deutscher Gymnastik-Bund)の設立と活動の実際に着目して—
審査員	主査 教授 谷 釜 了 正 副査 教授 石 井 隆 憲 副査 教授 関 根 正 美

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本論文は1925年に設立されたドイツ体操連合(Deutscher Gymnastik-Bund)に着目し、この体操連合が展開した新体操促進運動(Gymnastikbewegung)の実際(1901～1933)を明らかにすることを目的に研究されたものである。研究目的を実現するために、本論文を4つの章で構成し、それぞれの章ごとに詳細な立論を試みている。

第1章ではドイツ体操連合の設立の背景として「19世紀におけるドイツ国民体育の実態」を取り上げ、ドイツ国民体育の中心を担ったシュピース＝マウル方式の学校体育に着目して「要素化」、「鑄型化」した集団秩序運動の限界を明らかにしている。その限界とは号令に従って集団で実施する運動であり、「硬直化」し、「画一化」した動きで構成された運動の機械的に連続して実施することが要求されたことにより、人間の運動としての自然な動きが封じ込められ、身体の望ましい発達が期待できないことになっていたことによる、と論者はいう。こうした問題を打開するために、論者は体操家、舞踊家、音楽家たちが一同に会して「新しい」体操を考案し、それを積極的に推進する運動を展開していったことに注目している。そしてその新しい体操の推進を担うための団体が組織され、「ドイツ体操連合」(Deutscher Gymnastik-Bund)としての活動が開始されたと結論づけるにいたっている。第2章は「新体操運動の胎動とドイツ体操連合の設立に向けた展開(1901年—1925年)」と題して、第1次世界大戦が行なわれた時代(1914年7月～18年11月)を挟んだ時期の体操界の動向について論じている。まずは「芸術教育運動」が興隆して当時の体操は「体操と音楽と美」が融合する道を模索するとともに、表現技術の革新を図るべく医学的合理性を有する体操(デルサルト、カルマイヤー、メンゼンディーク、ローエランド)、運動リズムと表現力の発達のための音楽教育と一体になった体操(ダルクローズ、ボーデ)、ダンスの見地から再構築された体操(ダンカン、ラバン、ウイグマン)等の体操流派が勃興したことに注目している。このような動向が「芸術体操会議」(1922年)を結び、その延長線上に「ドイツ体操連合」の誕生をみる、と論者は見做

しているためである。第3章では「ドイツ体操連合の設立と活動の実際」(1922年～33年)と題してドイツ体操連合の設立状況とその活動について詳細に論じている。また、この時期は第一次世界大戦が終了し、人々が平和を享受した時期であることも手伝って、ドイツ体操連合が学校の児童生徒、社会人、そして女性に対して発信する「新しい」体操は各地に浸透していったが、やがて戦争の影(ナチスの登場)が新体操促進運動にも落とし込まれるようになり、新体操のメディアとして大きな影響力を有したドイツ体操連合の機関誌「ジムナスティック」(1926年～1933年)は廃刊に追い込まれることとなった、という。第4章では「ドイツ体操連合が普及促進した体操の特色」と題して、本研究の結論を導いている。新体操運動の特色はドイツ体操連合の機関誌に投ぜられた論考で確認できるとの観点から、本誌の分析を通して新しい体操の「運動形成」とその指導実践の解明を通して、論者は新しい体操の内実を「身体の内的機能の重視と空間認識による運動」「運動と音楽の融合」「芸術教育運動との接続」の三つの視点から解釈する。その結果、論者は自然な動きによる心身の健康のための効用を促し、芸術や音楽が織りなす自然なリズムを通して身と心をほぐしてくれる、新しい体操が誕生したと結論づけている。

以上のように本研究は戦争の時代から解き放たれた体操教育の新展開に着目し、人間の内面の感情を表出(Darstellung)することが許される「体操」の新境地を詳らかにしているのであるが、このことと合せて、オリジナリティに富んでいることから今後のダンスや体操の教材研究に資するものであることを認め、高く評価するものである。

学 力 確 認 の 結 果 の 概 要

本人は本学大学院博士後期課程に在学し単位取得満期退学をしていること、ドイツに2カ年の留学を経験していることが確認できることから、基礎学力、語学(独語)力、専門的知識、体育史等の基礎的教養の高いレベルの持ち主であることが確認された。

最 終 試 験 結 果 の 概 要

審査員から細部にわたる質問が出されたが、的確に応答がなされた。特に体操とダンスとの融合に関しては豊かな学識を動員して詳細な説明がなされた。その結果、近代ドイツの体操・ダンス教育を幅広い視野に立って分析するための十分な見識を有していることが確認された。これにより、申請者は博士の学位を取得するに値する人物であると判定した。